



## 平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成24年8月1日  
上場取引所 東 大

上場会社名 参天製薬株式会社  
コード番号 4536 URL <http://www.santen.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 黒川 明  
問合せ先責任者 (役職名) コーポレート・コミュニケーション (氏名) 日比 貴史 TEL 06-6321-7007  
グループ グループマネージャー  
四半期報告書提出予定日 平成24年8月10日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績（平成24年4月1日～平成24年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	27,958	0.4	6,122	△21.1	6,546	△20.1	4,277	△22.6
24年3月期第1四半期	27,850	6.2	7,762	17.0	8,188	14.6	5,526	20.7

(注) 包括利益 25年3月期第1四半期 4,158百万円 (△30.9%) 24年3月期第1四半期 6,020百万円 (89.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	49.07	49.03
24年3月期第1四半期	63.43	63.36

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第1四半期	188,884	164,682	87.0	1,885.56
24年3月期	198,801	164,861	82.8	1,887.81

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 164,335百万円 24年3月期 164,514百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	50.00	—	50.00	100.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	50.00	—	50.00	100.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年3月期の連結業績予想（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	57,000	0.4	12,000	△17.6	12,300	△18.3	8,300	△16.2	95.26
通期	114,500	0.1	23,500	△12.1	24,000	△13.6	16,000	△6.8	183.64

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものです。詳細は、添付資料6ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年3月期1Q	87,155,703株	24年3月期	87,146,803株
② 期末自己株式数	25年3月期1Q	1,595株	24年3月期	1,246株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	25年3月期1Q	87,154,172株	24年3月期1Q	87,118,307株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績は、事業環境変化、新薬の承認時期、為替レート変動、医薬品行政の動向など様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	6
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	6
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	6
3. 四半期連結財務諸表 .....	7
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	7
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書 .....	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	11
(6) セグメント情報等 .....	11
(7) 重要な後発事象 .....	12
4. 連結参考資料 .....	13
(1) 主要製品売上高 .....	13
(2) 医薬品開発状況 .....	14
(3) 設備投資、減価償却費、リース料および研究開発費の実績ならびに見込額 .....	16

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

## ① 当第1四半期連結累計期間の業績の状況

国内医療用眼科薬市場は、網膜疾患治療剤および角結膜疾患治療剤の伸長により、前年同期と比べ拡大しました。一方、海外医療用眼科薬市場は、アジアでは堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は、目の疲れ用、目のかすみ用目薬などが伸長し、前年同期と比べ拡大しました。

このような状況下、当第1四半期の業績は、以下のとおり、前年同期と比べ、売上高は0.4%の微増となりましたが、営業利益以下の各利益は減益となりました。

(単位：百万円)

	前第1四半期	当第1四半期	前年同期増減率
売上高	27,850	27,958	0.4%
営業利益	7,762	6,122	△21.1%
経常利益	8,188	6,546	△20.1%
四半期純利益	5,526	4,277	△22.6%

## [売上高]

前年同期から0.4%増加し、279億5千8百万円となりました。

これは、主力の国内医療用医薬品事業において、緑内障・高眼圧症治療剤「タプロス点眼液」・「コソプト配合点眼液」、角結膜疾患治療剤「ジクアス点眼液」等の成長に加えて、海外における普及促進活動により、当社製品の市場浸透が進んだことによるものです。

## [営業利益]

前年同期から21.1%減少し、61億2千2百万円となりました。

売上原価は94億4千8百万円となり、売上原価率は33.8%となりました。販売費及び一般管理費については123億8千7百万円となり、このうち研究開発費は40億5百万円となりました。

## [経常利益]

前年同期から20.1%減少し、65億4千6百万円となりました。

## [四半期純利益]

前年同期から22.6%減少し、42億7千7百万円となりました。

② 当第1四半期連結累計期間のセグメント別業績の状況

参天製薬グループは、医薬品事業とその他の事業セグメントから構成されます。売上高の多くは医薬品事業によっており、その全売上高に占める比率は98.2%になります。

医薬品事業の売上高は、前年同期から1.4%増加し274億4千8百万円となりました。営業利益は、63億3千5百万円となりました。一方、その他の事業の売上高は、前年同期から33.8%減少し5億9百万円となりました。営業損失は、2億1千2百万円となりました。

(単位：百万円)

	国内		海外		合計	
	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率
医薬品事業	23,196	0.5%	4,251	6.5%	27,448	1.4%
医療用医薬品	21,743	△0.9%	4,248	6.6%	25,991	0.2%
うち眼科薬	18,917	△0.8%	4,141	6.5%	23,058	0.4%
うち抗リウマチ薬	2,582	0.5%	15	△65.5%	2,598	△0.7%
うちその他医薬品	243	△20.0%	90	71.4%	334	△6.5%
一般用医薬品	1,453	27.0%	3	△19.4%	1,457	26.8%
その他の事業	497	12.7%	12	△96.2%	509	△33.8%
医療機器	494	12.8%	12	△96.2%	507	△33.9%
その他	2	△5.3%	—	—	2	△5.3%
合計	23,694	0.7%	4,264	△1.3%	27,958	0.4%

(注) 各セグメントの売上高は、外部顧客に対する売上高を表しています。

[医薬品事業]

(医療用医薬品)

<眼科薬>

[国内]

医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を展開しましたが、薬価改定の影響があり、国内医療用眼科薬の売上高は、前年同期と比べ0.8%減少し189億1千7百万円となりました。

緑内障・高眼圧症の治療ニーズに合致した「タプロス点眼液」は順調に市場浸透した結果、売上高は前年同期と比べ8.7%増加し18億9千3百万円となりました。

角結膜疾患治療剤領域では、ドライアイ（眼球乾燥症候群）などに伴う角結膜上皮障害の治療剤「ヒアレイン点眼液」が、患者さんや医療現場に対するドライアイの疾患啓発活動に注力したものの、薬価改定の影響があり、売上高は、前年同期と比べ5.5%減少し45億8千5百万円となりました。また、「ジクアス点眼液」は、順調に市場浸透した結果、売上高は10億8千4百万円となりました。

合成抗菌点眼剤領域では、市場環境の変化や薬価改定の影響により、「クラビット点眼液」、「タリビッド点眼液」両剤合わせた売上高は、前年同期と比べ24.4%減少し25億5百万円となりました。

抗アレルギー点眼剤領域では、引き続き医薬情報提供活動に注力しましたが、薬価改定の影響に加えて、スギ花粉の飛散が前年同期と比べ小規模であったこともあり、「リボスチン点眼液」の売上高は、前年同期と比べ2.9%減少し5億6千9百万円となりました。

[海外]

海外における医療用眼科薬の売上高は、円換算ベースで前年同期と比べ6.5%増加し41億4千1百万円となりました。

欧州では医薬情報提供などの普及促進活動に注力した結果、ドイツを中心に緑内障・高眼圧症治療剤「タフロタン」が市場浸透してきました。

アジアにおいても、普及促進活動の展開により、中国、韓国を中心に、当社製品の市場浸透が進みました。

<抗リウマチ薬>

抗リウマチ薬の売上高は、「リマチル錠」、「アザルフィジンEN錠」ならびに「メトレート錠」が、国内において関節リウマチ治療ガイドラインで強く推奨される製剤に位置付けられていることもあり、国内の売上高は前年同期と比べ増加しましたが、韓国の薬価改定の影響もあり、抗リウマチ薬の売上高は、前年同期と比べ0.7%減少し25億9千8百万円となりました。

<その他医薬品>

その他医薬品には、技術提携（導出）契約に基づく収入、受託製造等が含まれます。

その他医薬品の売上高は、前年同期と比べ6.5%減少し3億3千4百万円となりました。

(一般用医薬品)

一般用医薬品の売上高は、「ソフトサンティア」、「サンテメディカルガード」、「サンテメディカル10」を中心に販売促進活動に注力した結果、前年同期と比べ26.8%増加し14億5千7百万円となりました。

[その他の事業]

(医療機器)

医療機器の売上高は、高屈折率の亚克力素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」の普及促進活動に注力した結果、国内の売上高は順調に伸長しましたが、前年度は技術提携（導出）契約に基づく収入が含まれるため、前年同期と比べ33.9%減少し5億7百万円となりました。

(その他)

その他の売上高は、(株)クレール（連結子会社）での無塵・無菌服のクリーニング業によるものであり、2百万円となりました。

### ③ 研究開発活動

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として研究開発を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な臨床開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジンF<sub>2α</sub>誘導体DE-085（一般名：タフルプロスト）は、平成20年12月より日本で「タプロス点眼液」として販売中です。海外では欧州とアジアの合計27ヵ国で自社販売しており、中国では製造販売承認を申請中です。また、平成21年4月のライセンス契約により、メルク社（米国）は、米国、西欧、ラテンアメリカ諸国など合計23ヵ国でタフルプロストを販売しています。この結果、タフルプロストの販売国は、全世界で51ヵ国となっています。また、防腐剤を含まない1回使い切りタイプのDE-118（一般名：タフルプロスト）は、日本で製造販売承認を申請中です。

緑内障・高眼圧症を適応症とする配合剤DE-111（一般名：タフルプロスト／チモロールマレイン酸塩）は、日本と欧州で第Ⅲ相試験を実施中です。また、緑内障・高眼圧症を適応症とするプロスタグランジンEP2作動薬DE-117（一般名：未定）の第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験を米国で開始しました。

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域において、DE-089（一般名：ジクアホソルナトリウム）は、平成22年12月より日本で「ジクアス点眼液」として販売しています。また、韓国では平成23年12月に製造販売承認を取得し、中国では平成24年1月に製造販売承認を申請しました。ドライアイを含む角結膜上皮障害を適応症とするDE-101（一般名：リボグリタゾン）は、米国で第Ⅱ相試験を実施中です。また、遷延性角膜上皮欠損を適応症とするDE-105（一般名：未定）は、日本で第Ⅱ相試験を実施中です。なお、選択的グルココルチコイド受容体作動薬DE-110（一般名：未定）は、米国での第Ⅱ相試験で所期の達成基準を満たさなかったため臨床試験を一時中断し、製剤改良を含む今後の方針を検討中です。

網膜・ぶどう膜疾患領域において、DE-102（一般名：ベタメタゾン）は、糖尿病黄斑浮腫と網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫を対象に第Ⅱ相／第Ⅲ相試験を日本で実施中です。また、ぶどう膜炎を適応症とするDE-109（一般名：シロリムス）は、米国、日本で第Ⅲ相試験を実施中で、欧州においても第Ⅲ相試験を開始しました。

外眼部感染症を適応症とするDE-108（一般名：レボフロキサシン（1.5%））は、平成23年6月より「クラビット点眼液1.5%」として、日本で販売しています。また、韓国では製造販売承認を申請中です。

アレルギー性結膜炎を適応症としたDE-114（一般名：エピナスチン塩酸塩）は、日本で第Ⅲ相試験を実施中です。

関節リウマチを適応症とするDE-098（一般名：未定）は、日本での第Ⅱ相試験の結果を踏まえ、今後の事業価値の最大化を図るべく次の開発計画を検討中です。

ノバガリ・ファーマ・エス・エー・エス（連結子会社）の臨床開発品について、Cyclokate（シクロカット、一般名：シクロスポリン）は、重症ドライアイを適応症として欧州で第Ⅲ相試験を実施中です。春季カタルを適応症とするVekacia（ベカシア、一般名：シクロスポリン）は、欧州で第Ⅲ相段階にあります。

なお、緑内障・高眼圧症を適応症とするCatioprost（カチオプロスト、一般名：ラタノプロスト）、そして糖尿病黄斑浮腫を適応症とするCortiject（コルチジェクト、一般名：デキサメタゾンパルミチン酸エステル）の2品目は、引き続き事業性について評価中です。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期末の資産は、前連結会計年度末と比べ99億1千7百万円減少し、1,888億8千4百万円となりました。受取手形及び売掛金の増加などがありましたが、現金及び預金の減少などが要因です。

負債は、前連結会計年度末と比べ97億3千8百万円減少し、242億2百万円となりました。支払手形及び買掛金の減少、未払法人税等の減少などが要因です。

純資産は、前連結会計年度末と比べ1億7千9百万円減少し、1,646億8千2百万円となりました。為替換算調整勘定の減少などが要因です。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末と比べ4.2ポイント増加し、87.0%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期末までの営業活動によるキャッシュ・フローは、60億3千8百万円の支出となりました。税金等調整前四半期純利益は65億6千3百万円であり、売上債権の増加が29億3千8百万円、仕入債務の減少が33億3千1百万円、法人税等の支払いが51億5千8百万円あったことなどによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、13億5千1百万円の支出となりました。投資有価証券の取得による支出が12億1千1百万円あったことなどによります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、42億3千7百万円の支出となりました。配当金の支払いが42億4千7百万円あったことなどによります。

以上の結果、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、前連結会計年度末と比べ120億8千万円減少し、629億5千5百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期の業績は概ね予定通り推移しており、平成24年5月8日に公表した連結業績予想は修正していません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
(減価償却方法の変更)

当社および国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しています。

これにより、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益はそれぞれ1百万円増加しています。



3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	66,235	54,029
受取手形及び売掛金	37,923	40,684
有価証券	12,739	12,734
商品及び製品	14,672	13,192
仕掛品	600	639
原材料及び貯蔵品	2,677	2,974
繰延税金資産	1,921	1,048
その他	3,521	3,659
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	140,288	128,962
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	41,058	40,876
減価償却累計額及び減損損失累計額	△28,251	△28,527
建物及び構築物（純額）	12,806	12,348
機械装置及び運搬具	11,363	11,280
減価償却累計額及び減損損失累計額	△9,782	△9,773
機械装置及び運搬具（純額）	1,581	1,506
土地	8,213	8,202
リース資産	241	220
減価償却累計額及び減損損失累計額	△75	△86
リース資産（純額）	166	134
建設仮勘定	1,365	1,520
その他	11,214	11,206
減価償却累計額及び減損損失累計額	△9,823	△9,679
その他（純額）	1,390	1,527
有形固定資産合計	25,523	25,240
無形固定資産		
のれん	5,801	6,179
仕掛研究開発	5,941	6,478
ソフトウェア	831	773
その他	301	326
無形固定資産合計	12,877	13,757
投資その他の資産		
投資有価証券	12,411	13,400
繰延税金資産	6,500	6,337
その他	1,200	1,186
投資その他の資産合計	20,112	20,923
固定資産合計	58,513	59,922
資産合計	198,801	188,884

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,074	4,825
未払金	9,009	7,108
未払法人税等	5,282	1,535
賞与引当金	2,943	1,481
その他	2,115	2,619
流動負債合計	27,425	17,569
固定負債		
繰延税金負債	1,996	2,175
退職給付引当金	3,459	3,506
役員退職慰労引当金	222	200
資産除去債務	161	162
その他	674	589
固定負債合計	6,514	6,633
負債合計	33,940	24,202
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,694	6,705
資本剰余金	8,049	8,059
利益剰余金	156,030	155,950
自己株式	△4	△5
株主資本合計	170,770	170,709
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	51	167
為替換算調整勘定	△6,306	△6,542
その他の包括利益累計額合計	△6,255	△6,374
新株予約権	347	347
純資産合計	164,861	164,682
負債純資産合計	198,801	188,884

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	27,850	27,958
売上原価	8,652	9,448
売上総利益	19,198	18,509
販売費及び一般管理費	11,435	12,387
営業利益	7,762	6,122
営業外収益		
受取利息	11	15
受取配当金	220	221
生命保険配当金	143	157
為替差益	3	31
その他	60	40
営業外収益合計	439	466
営業外費用		
支払利息	5	1
その他	7	41
営業外費用合計	13	42
経常利益	8,188	6,546
特別利益		
固定資産処分益	—	16
投資有価証券売却益	10	—
特別利益合計	10	16
特別損失		
固定資産処分損	1	—
投資有価証券売却損	15	—
特別損失合計	17	—
税金等調整前四半期純利益	8,182	6,563
法人税、住民税及び事業税	1,429	1,451
法人税等調整額	1,226	834
法人税等合計	2,656	2,286
少数株主損益調整前四半期純利益	5,526	4,277
四半期純利益	5,526	4,277
少数株主損益調整前四半期純利益	5,526	4,277
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	104	116
為替換算調整勘定	390	△235
その他の包括利益合計	494	△118
四半期包括利益	6,020	4,158
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,020	4,158
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	8,182	6,563
減価償却費	664	607
のれん償却額	—	161
退職給付引当金の増減額(△は減少)	12	52
受取利息及び受取配当金	△232	△236
支払利息	5	1
売上債権の増減額(△は増加)	△31	△2,938
たな卸資産の増減額(△は増加)	△937	988
仕入債務の増減額(△は減少)	△282	△3,331
その他	△2,028	△2,984
小計	5,352	△1,116
利息及び配当金の受取額	230	236
利息の支払額	△4	△0
法人税等の支払額	△4,509	△5,158
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,069	△6,038
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△8	△38
定期預金の払戻による収入	1,895	166
有価証券の取得による支出	△708	△301
有価証券の売却による収入	1,007	707
固定資産の取得による支出	△655	△705
固定資産の売却による収入	—	30
投資有価証券の取得による支出	△1	△1,211
投資有価証券の売却による収入	322	—
その他	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,850	△1,351
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△4,225	△4,247
その他	90	10
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,134	△4,237
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	△453
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,218	△12,080
現金及び現金同等物の期首残高	72,482	75,035
現金及び現金同等物の四半期末残高	71,264	62,955

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

1. 前第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	計	調整額	四半期連結 損益及び包括 利益計算書 計上額
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	27,080	770	27,850	—	27,850
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	29	29	△29	—
計	27,080	800	27,880	△29	27,850
セグメント利益	7,547	215	7,762	—	7,762

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

2. 当第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	計	調整額	四半期連結 損益及び包括 利益計算書 計上額
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	27,448	509	27,958	—	27,958
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	30	30	△30	—
計	27,448	540	27,988	△30	27,958
セグメント利益又は損失(△)	6,335	△212	6,122	—	6,122

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

(7) 重要な後発事象

自己株式の取得および自己株式の公開買付け

当社は、平成24年8月1日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条第1項および当社定款の規定に基づき、自己株式の取得およびその具体的な取得方法として自己株式の公開買付けを行うことを決議しました。

1. 自己株式の取得および自己株式の公開買付けの目的

当社は、当社大株主からその保有する当社普通株式を売却する意向のある旨の連絡を受けたため、この売却により一時的にまとまった数量の株式が市場に放出されることによる当社普通株式の流動性および市場価格に与える影響、ならびに当社の財務状況等を総合的に鑑み、当該株式を自己株式として取得することを検討しました。その結果、この自己株式の取得が当社の資本効率の向上および株主の皆様に対する利益還元につながることを、ならびに当社の財務状態や配当方針に大きな影響を与えないこと等を総合的に勘案し、当社の利益配分に関する基本方針に合致すると判断したためです。

また、自己株式の具体的な取得方法については、株主間の平等性、取引の透明性の観点から、公開買付けの手法が適切であると判断しました。

2. 自己株式取得に関する取締役会決議の内容

① 取得する株式の種類

当社普通株式

② 取得する株式の総数

5,000,100株（上限）

③ 取得する期間

平成24年8月2日～平成24年9月24日

④ 取得価額の総額

14,000百万円（上限）

3. 公開買付けの内容

① 買付け等を行う上場株券等に係る株式の種類

当社普通株式

② 買付け等の期間

平成24年8月2日～平成24年8月29日（20営業日）

③ 買付け等の価格

1株につき 金2,782円

④ 買付け予定の上場株券等の数

5,000,000株

⑤ 決済の開始日

平成24年9月21日

なお、本公開買付けにより取得した自己株式については、年内を目処にその全部を消却する予定です。

4. 連結参考資料

(1) 主要製品売上高

(単位:百万円)

品目名 有効成分・剤形	薬効分類	平成24年3月期			平成25年3月期		
		第1四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	通期実績	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計見込	通期見込
クラビット点眼液	合成抗菌点眼剤	3,226	6,767	12,368	2,697	6,366	12,075
レボフロキサシン点眼液		(△1.8)	(△2.6)	(△4.2)	(△16.4)	(△5.9)	(△2.4)
タリビッド点眼液	合成抗菌点眼剤	461	1,036	1,932	455	823	1,577
オフロキサシン点眼液		(△23.8)	(△17.3)	(△20.1)	(△1.4)	(△20.5)	(△18.4)
タブロス点眼液	緑内障治療剤	1,779	3,642	7,351	1,951	3,893	8,076
タフルプロスト点眼液		(9.1)	(10.2)	(10.8)	(9.6)	(6.9)	(9.9)
コンプト配合点眼液	緑内障治療剤	1,347	2,832	6,271	2,091	4,104	8,661
ドルゾラミド塩酸塩/ チモロールマレイン酸塩点眼液		(223.2)	(182.2)	(113.7)	(55.2)	(44.9)	(38.1)
チモプトール点眼液	緑内障治療剤	467	906	1,701	384	651	1,148
チモロールマレイン酸塩点眼液		(△25.1)	(△22.8)	(△20.9)	(△17.7)	(△28.2)	(△32.5)
チモプトールXE点眼液	緑内障治療剤	657	1,269	2,404	573	978	1,856
チモロールマレイン酸塩持続性点眼液		(△22.5)	(△19.6)	(△16.9)	(△12.7)	(△22.9)	(△22.8)
デタントール点眼液	緑内障治療剤	509	1,005	1,968	500	941	1,789
ブナゾシン塩酸塩点眼液		(△7.2)	(△6.8)	(△4.7)	(△1.8)	(△6.4)	(△9.1)
レスキュラ点眼液	緑内障治療剤	647	1,284	2,472	594	1,178	2,351
インプロピル ウノプロストン点眼液		(△15.9)	(△12.7)	(△11.0)	(△8.2)	(△8.2)	(△4.9)
リボスチン点眼液	抗アレルギー	585	1,196	3,346	569	1,563	3,404
レボカバスチン塩酸塩点眼液	点眼剤	(14.7)	(9.7)	(△11.9)	(△2.9)	(30.7)	(1.7)
ヒアレイン点眼液	角結膜疾患治療剤	5,528	11,322	22,216	5,216	10,413	20,443
ヒアルロン酸ナトリウム点眼液		(6.1)	(6.4)	(4.5)	(△5.6)	(△8.0)	(△8.0)
ジクアス点眼液	角結膜疾患治療剤	520	1,121	2,846	1,084	2,202	5,299
ジクアホソルナトリウム点眼液		—	—	(281.7)	(108.2)	(96.3)	(86.2)
フルメロン点眼液	抗炎症点眼剤	921	1,991	4,072	1,003	2,028	3,904
フルオロメロン点眼液		(△12.3)	(△8.6)	(△14.3)	(8.9)	(1.9)	(△4.1)
カリーユニ点眼液	老人性	935	1,920	3,690	953	1,961	3,849
ピレノキシ点眼液	白内障治療剤	(0.0)	(△1.0)	(△1.0)	(1.9)	(2.1)	(4.3)
オペガンハイ眼粘弾剤	眼科手術補助剤	762	1,535	3,018	739	1,552	3,086
ヒアルロン酸ナトリウム眼科手術補助剤		(△8.2)	(△7.0)	(△6.5)	(△3.1)	(1.1)	(2.3)
リマチル錠	抗リウマチ剤	1,009	1,952	3,673	891	1,661	3,211
ブシラミン錠		(△4.4)	(△5.3)	(△6.9)	(△11.7)	(△14.9)	(△12.6)
アザルフィジンEN錠	抗リウマチ剤	1,056	2,069	4,030	1,004	1,944	3,818
サラゾスルファピリジン腸溶錠		(△2.4)	(△1.9)	(△1.9)	(△5.0)	(△6.0)	(△5.2)
メレート錠	抗リウマチ剤	398	816	1,705	501	914	1,859
メトレキサート錠		(32.9)	(34.2)	(36.4)	(25.8)	(12.0)	(9.0)
一般用医薬品		1,149	2,446	4,597	1,457	3,060	6,164
		(16.5)	(△2.4)	(△2.7)	(26.8)	(25.1)	(34.1)

下段: 対前期伸長率(%)

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。

(2) 医薬品開発状況

■ 医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売		
タフルプロスト	DE-085	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	日本						2008年12月		
				欧州							2008年6月	
				米国	(導出)							2012年3月
				ラテンアメリカ	(導出)							2010年8月
				アジア								2010年3月
				中国								2011年1月

プロスタグランジンF<sub>2α</sub>誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。2008年12月、日本での販売開始。欧州では、ドイツ、デンマーク等で販売中。2009年4月、米国等での開発権をメルク社(米国)に許諾。アジアでは2010年3月以降、香港、韓国、インドネシア、シンガポールにて販売中。中国で承認申請中。米国では、メルク社より2012年3月に販売開始。

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売	
ジクアホソルナトリウム	DE-089	ドライアイ	インスパイア	日本						2010年12月	
				アジア							2011年12月
				中国							2012年1月

角結膜上皮からムチンや水分の分泌を促すドライアイ治療剤。既存薬と異なる作用機序を持つ。2010年12月、日本での販売開始。韓国で製造販売承認取得、中国では承認申請中。

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ロメリジン塩酸塩	DE-090	緑内障	MSD	日本						

視野欠損の進行抑制作用を有する新しい緑内障治療剤。カルシウム拮抗作用に基づく経口緑内障薬としては、唯一の開発薬剤。NMDA受容体拮抗剤と異なり、全身性の副作用が軽微であり、高い安全性を有する。

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
リボグリタゾン	DE-101	角結膜上皮障害(ドライアイを含む)	第一三共	米国						

抗炎症作用などに基づく涙液の質及び量の改善効果を期待。

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ベタメタゾン	DE-102	糖尿病およびBRVO *に伴う黄斑浮腫	オークウッドと共同開発	日本		(フェーズ2/3)				

ドラッグデリバリーシステムの概念を取り入れたマイクロスフェア製剤で、局所投与により安定した薬効持続性を期待。商業用スケールでの製造技術開発でオークウッド社(米国)と提携。\*BRVO:網膜静脈分枝閉塞症

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-105	遷延性角膜上皮欠損	自社	米国						
				日本						

既存療法では難治性の遷延性角膜上皮欠損に対し、角膜上皮細胞の伸展促進作用により、角膜上皮欠損を修復する効果と高い安全性を期待。

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
レボフロキサシン(1.5%)	DE-108	外眼部感染症	第一三共	日本						2011年6月
				アジア						2011年10月

ニューキノロン系抗菌薬の高濃度製剤。2011年6月、日本での販売開始。韓国で承認申請中。

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
シロリムス	DE-109	ぶどう膜炎	自社	米国						
				日本						
				欧州						

免疫抑制作用、血管新生抑制作用などを有する硝子体内注射剤。米国と日本でフェーズ3試験を実施中、欧州でフェーズ3試験を開始。

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
タフルプロスト/ チモロールマレイン酸塩	DE-111	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発 共同開発	日本						
				欧州						

プロスタグランジンF<sub>2α</sub>誘導体およびβ遮断剤の配合剤。



■医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
エピナスチン塩酸塩	DE-114	アレルギー性結膜炎	日本ベーリンガーインゲルハイム	日本						
H1拮抗作用と膜安定化作用を併せ持つアレルギー性結膜炎治療剤。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-117	緑内障・高眼圧症	宇部興産と共同開発	米国	(フェーズ1/2a)					
新規メカニズムのプロスタグランジンEP2作動薬。米国でフェーズ1/2a試験を開始。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
タフルプロスト	DE-118	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	日本				2012年2月		
プロスタグランジンF <sub>2α</sub> 誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。防腐剤を含まない、1回使い切りタイプの製剤。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-098 (抗APO-1抗体)	関節リウマチ	ヤンセン バイオテック	日本						
関節リウマチ患者の罹病関節内でアポトーシスを誘導する関節注入剤。フェーズ2試験の結果を踏まえ、次の開発計画を検討中。										

■ノバガリ開発品の状況(臨床段階)

一般名	開発品名	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
シクロスポリン	Cyclokot (シクロカト)	重症ドライアイ	自社	欧州						
				米国						
免疫抑制作用により、重症ドライアイの他覚所見及び自覚症状を改善する乳化点眼剤。カチオニック製剤技術により組織移行性を高めた製剤。										
シクロスポリン	Vekacia (ベカシア)	春季カタル	自社	欧州						
免疫抑制作用により、春季カタルの症状を改善する乳化点眼剤。カチオニック製剤技術により組織移行性を高めた製剤。										
ラタノプロスト	Catioprost (カチオプロスト)	緑内障・高眼圧症	自社	欧州						
プロスタグランジンF <sub>2α</sub> 誘導体の、緑内障・高眼圧症治療用乳化点眼剤。										
デキサメタゾン パルミチン酸エステル	Cortiject (コルチジェクト)	糖尿病黄斑浮腫	自社	米国	(フェーズ1/2)					
抗炎症作用を有する硝子体内注射剤。										

※カチオプロスト、コルチジェクトの2品は、事業性について評価中。

■2011年度第4四半期発表時(2012年5月8日)からの変更点

開発コード	変更点
DE-109	欧州でフェーズ3試験を開始
DE-110	フェーズ2試験の結果に基づき臨床試験を一時中断、製剤改良を含む今後の方針を検討中
DE-117	米国でフェーズ1/2a試験を開始

(3)設備投資、減価償却費、リース料および研究開発費の実績ならびに見込額

■設備投資

(単位:百万円)

	平成24年3月期			平成25年3月期		
	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	通期実績	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計見込	通期見込
設備投資額	630	1,261	3,492	459	1,970	6,430

■減価償却費

(単位:百万円)

	平成24年3月期			平成25年3月期		
	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	通期実績	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計見込	通期見込
総額	646	1,317	2,717	589	1,320	2,840
製造経費	337	679	1,400	272	600	1,290
販売管理費	141	286	553	144	300	640
研究開発費	167	351	764	172	420	910

(注)のれんおよび長期前払費用の償却費は除いています。

■リース料

(単位:百万円)

	平成24年3月期			平成25年3月期		
	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	通期実績	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計見込	通期見込
総額	10	18	23	1	5	10
製造経費	0	1	2	0	2	5

■研究開発費

(単位:百万円)

	平成24年3月期			平成25年3月期		
	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	通期実績	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計見込	通期見込
研究開発費	3,119	7,602	17,225	4,005	8,500	17,500
対売上高比	11.2%	13.4%	15.1%	14.3%	14.9%	15.3%

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。